

# 清 月



第152回 平成25年 3月

平成二五年三月中の清月俳句のインターネットページの閲覧者実態についてインターネット使用者はいずれかのプロバイダーに契約地や使用言語などを登録していません。またインターネットを閲覧すると閲覧した頁に詳細までは分かりませんが閲覧者の所在都道府県名や使用パソコンの国語の種別が残るようになっていきます。

この残されたデータから閲覧に用いたパソコンの所在都道府県や使用言語別に三月中の清月俳句関係頁の閲覧状況を延べ頁数で見ると下記の通りでした。

清月ホーム	二〇〇二頁	一日平均	六五頁	三・五%
前月の俳句	八八三九頁	一日平均	二八五頁	一五・一%
清月歳時記	四万七四〇一頁	一日平均	一千五二九頁	八一・四%
総 数	五万八二四二頁	一日平均	一千八七九頁	

これを閲覧者の都道府県別・言語圏別で見ると

都道府県の一日平均の総数は、一千五四八頁で全都道府県から閲覧がありました。多かったのは東京から三〇八頁・大阪から一二五ページ・愛知から九〇頁・神奈川から八三頁・長野から六二頁などでした。

外国語圏からの一日平均の総数は、三三一頁で英語圏から三二四頁・中国語圏から三頁・韓国語圏から二頁で一頁以下ではフランス語圏・ドイツ語圏・ポルトガル語圏・スペイン語圏・ロシア語圏・ベトナム語圏・オランダ語圏からの閲覧がありました。外国語圏からの閲覧は、在留商社邦人や留学生・日本語学習母国人らの閲覧ではないかと思っております。

この数値にはヤフーなど検索業者のチェック閲覧を含みますが、閲覧元を故意に秘匿しての閲覧の言語圏や数値は集計しようがありませんので含まれていません。(ゆたか記)

貝寄風

野田ゆたか

貝寄風の波逆立てる河口かな  
忌祭にと少し多めの菊根分  
風防の肴にしてはほの苦し  
新調の墨なじみゆく春の水  
蒲公英のしきりに絮の飛ぶ日和

雑詠

ゆたか選

(太字は秀逸句)

落ちてなほ姿留めて藪椿 千葉清水恵山  
谷地坊主楚々と並びて水芭蕉  
花冷となりゆく街の雨模様  
春泥の靴カラフルに並びけり  
急がずに生きる齡や花見酒  
孫去んでシャッター下ろす月朧 吹田池下よし子  
バイクの僧袖ひるがへし彼岸入る  
産直の朝のにぎはひ山笑ふ  
寄合ふてひそひそ話座禅草  
夜桜や忽とピアノの弾き語り

春場所や小兵力士の猫だまし 岡山橋本幹夫

吠子や訛飛び交ふ播磨灘

多羅の芽や煌めく雨後の射爆場

はるばると来しや小樽の雪解川

剪定夫脚立跨ぎて一服す

剪られても姿揺るがず水仙花 岐阜石崎そうびん

綿虫を顔でかき分け骨董市

蕪洗ふ女の頬の紅きことい

初稽古磨きぬかれた床に立つ

大寒や籠大仏のうすごろも

鞭入れて逃げ切る駿馬風光る 千葉田村公平

開け放つ庭が棧敷や雛の宿

雪しろや流れ豊に水車小屋 千葉田村公平

オリオンの三ツ星綺羅と冴返る

砂利踏めば心研がれて幣辛夷 大阪木村宏一

初孫の髭うつすらと卒業す

故郷は甥の代なりお中日

母の声聞こえてきさう梅の下 山梨湯沢正枝

花辛夷まだ捨てきれぬ行李かな

山門の新しき屋根花万朶

花種を蒔く慰霊碑の日だまりに 静岡渡邊春生

老桜の七百年を咲きほこる

天上に光る一点復活祭

黄水仙風に応えて右ひだり 三重山口美琴

菓膳の一品なりし蜆汁 三重山口美琴  
蒲公英や星座の如く土手に咲く  
想ひ馳す人それぞれの桜かな 山梨志村万香  
春の雪残像の如路に消え  
三月の空映したる海の色  
堰堤の彼岸桜や暮れなずむ 兵庫堤千鶴子  
つばめの子身より大きな口開けて  
見えねもの黄砂に混じり渡りくる  
波頭きらりきらりと春の海 千葉筒井省司  
沈丁の香に彷徨いし夕べかな  
ストツクの香り車中にむせかえる  
木々揃ひ春の叫びをためてをり 大阪森戸しうじ

路地に咲く立見ばかりの野梅かな 大阪森戸しうじ  
灯を消せば仄かに白き女雛かな 愛知駒田暉風  
パソコンの設定進む春日かな 愛媛石川順一  
**桜散る家康公のしかみ像** 山溪  
雲低く野焼の煙風呼びぬ  
花咲くや八丁味噌の蔵通り



寸感

ゆたか

落ちてなほ姿留めて藪椿 恵山

藪椿の紅は、咲いてよし、落ちてよし。

落ちていてもおしやれな愛らしさが伝わってくる。作者の立ち位置がよく分かり直ぐ句の景に入り込むことができました。

矚目即興のお手本のような佳句。

孫去んでシャッター下ろす月朧 よし子

賑やかであったものがいつもの静けさに戻った自宅。「シャッター下ろす」が孫達の別れの淋しさと相まって朧の月がじんと伝わってきます。

春場所や小兵力士の猫だまし 幹夫

不意を突いて先手をとった猫だましを目にした作者。体格が劣る力士の動きや負けん気が見えてきます。句材から判官最員の作者が伺えます。

花種を蒔く慰霊碑の日だまりに 春生

慰霊の種類を省略して読者に任せる。

読者は経験則から英霊・殉職・航空事故・震災・風水害などの慰霊の景を重ねて鑑賞します。省略が利いている。

桜散る家康公のしかみ像 山溪

家康が反省の戒めとして描かせた「しかみ」像。咲き誇っていた桜が散る様と家康公を重ねて鑑賞するとユーモラスでもある。

家康公のしかみ像



清月俳句会のホームページ  
<https://haiku575.info/seigetukai/home/homu.htm>

平成二五年四月二〇日発行  
清月句会一五二回  
主宰兼編集 野田ゆたか  
発行所 大阪清月庵